福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年５月 16 日現在
（専技情報より抜粋）

◇早期水稲（夢つくし、ｺｼﾋｶﾘ）◇

早期水稲の田植えは平年並で、５月１５日までに終了しました（最盛期は４月下旬）。
平年並～やや高い気温で経過しており、活着は概ね順調です。
浅水管理で初期生育を確保しましょう。
苗の活着を確認し、雑草対策を適期に行いましょう。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ﾋﾉﾋｶﾘなど）◇

現在、６月上中旬植え用の播種及び育苗作業が行われています。
田植えは、「夢つくし」で６月上中旬、「元気つくし」で６月中旬、「ヒノヒカリ」で６月下旬を中心に行われる見込みです。
育苗管理では、いもち病やもみ枯れ細菌病などの病害対策を徹底しましょう。
出穂期以降の高温による品質低下を防ぐため、各品種の移植適期を厳守しましょう。

◇麦類◇

収穫は、平年よりやや早く、11 月下旬播きの大麦・裸麦で５月１２日頃、小麦で５月２５日頃から本格的に開始される見込みです。
５月上旬の風雨により一部で倒伏がみられますが、登熟は良好です。
穂数は平年並～やや多く、収量は平年より多い見込みです。
排水溝の手入れを行い、排水を徹底しましょう。
収穫前に、ｶﾗｽﾉｴﾝﾄﾞｳなどの雑草を除去しましょう。
倒伏したほ場は別集荷を行いましょう。
穀粒水分を確認し、適期に収穫を行いましょう。

◇冬春ナス◇

出荷量は、４月中旬にピークとなり、草勢が低下しました。
現在は着果数が減少し、草勢は回復傾向です。
花、蕾が多く、５月末ごろから増量の見込みです。
日射が強くなり、日焼け果の発生が見られます。
病害虫では、すすかび病やコナジラミ類等が見られます。
一部で青枯れ病が発生しています。
ハウス換気やかん水、摘心・摘葉等の管理作業を徹底し、草勢維持に努めましょう。
コナジラミ類、ダニ類等の対策を徹底しましょう。
梅雨期に入ると、灰色かび病の発生が多くなるため、被害果や被害葉は除去し、初期からの対策を図りましょう。

◇冬春トマト◇

促成栽培の中心作型である９月中下旬定植は、11～13 段果房を収穫中です。
気温の上昇に伴い一部で軟化玉や黄変果の発生がみられます。
出荷は最盛期を過ぎ、出荷終了まで徐々に減少しながら推移する見込みです。
病害虫では灰色かび病、うどんこ病、コナジラミ類等の発生が見られます。
品質維持のため、遮光や肥培・温度管理を徹底しましょう。
かん水は急激な乾湿差による裂果を防ぐため、少量多回数で行いましょう。
灰色かび病やコナジラミ類等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

開花盛期は、県南地域では極早生が４月 28～29 日、早生が５月２日、普通温州が５月２～５日で、前年より５日程度早く、平年より４日程度早いです。
着花数は、極早生は並～やや多い、早生はやや多い～多い、普通は多いです。
着花が多い園地では、次年度の結果母枝を確保するため、摘果剤等を活用し、摘果を徹底しましょう。

◇カキ◇

「富有」の開花盛期は５月８～９日で前年より２日程度、平年より７日程度早いです。
雌花数は、いずれの品種とも前年並みで、平年より多いです。
「太秋」では雄花数が多いです。
フジコナカイガラムシの発生は少ないです。
カイガラムシは、幼虫発生時期の対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

１～４月の出荷量は、作付面積の減少により、前年および過去５年平均よりも減少しました。

販売単価は、全国的な生産量の減少により高く推移しています。

本県の主力である秋出し出荷作型の播種、種子冷蔵処理が４月下旬以降に開始しました。

６～７月出荷作型は、ほ場及び出荷後の灰色かび病対策を徹底しましょう。

７～８月定植では、ほ場準備を早めに行い、効果が高まるタイミング図り、土壌消毒を実施しましょう。

◇茶◇

一番茶の摘採は平坦地で終了し、山間地もほぼ終了しました。

４月の出荷量は、３月から４月中旬の高温により生育が早く、平年より多いです。

ハダニ、チャトゲコナジラミ、クワシロカイガラムシ及びチャノキイロアザミウマの対策を適期に実施しましょう。

樹勢の低い園や芽伸びが悪い園では、一番茶収穫終了後に更新せん定を行いましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇

牛肉は、消費者の節約志向の高まりにより、和牛去勢価格・省令価格は、ともに前年比、過去５年平均比どちらとも下回りました。

5 月の出荷頭数は全品種で増加の見込みです。

豚肉は、輸入豚の供給不足で、国産需要が安定しており、前年比、過去５年平均比どちらとも上回りました。

5 月の出荷頭数は前年並みの見込みです。

鶏卵は、3 月以降も全国的に鳥インフルエンザが発生し、供給不足が続いています。

そのため、卵価は前年比、過去５年平均比どちらとも大幅に上回りました。

5 月の生産量は引き続き低位で推移する見込みです。

寒暖差や日中の暑熱ストレスが懸念されるため、換気扇・給水施設等の能力確認等、早めの暑熱対策と餌を十分に食い込める環境を整え、家畜の体調の変化に留意しましょう。

飼料価格の高止まりが続いており、良質な自給飼料の確保に努めるとともに給与ロスの少ない飼養管理を徹底しましょう。